

平成 26 年度 P D C A サイクルづくり支援事業 C 調査集計結果

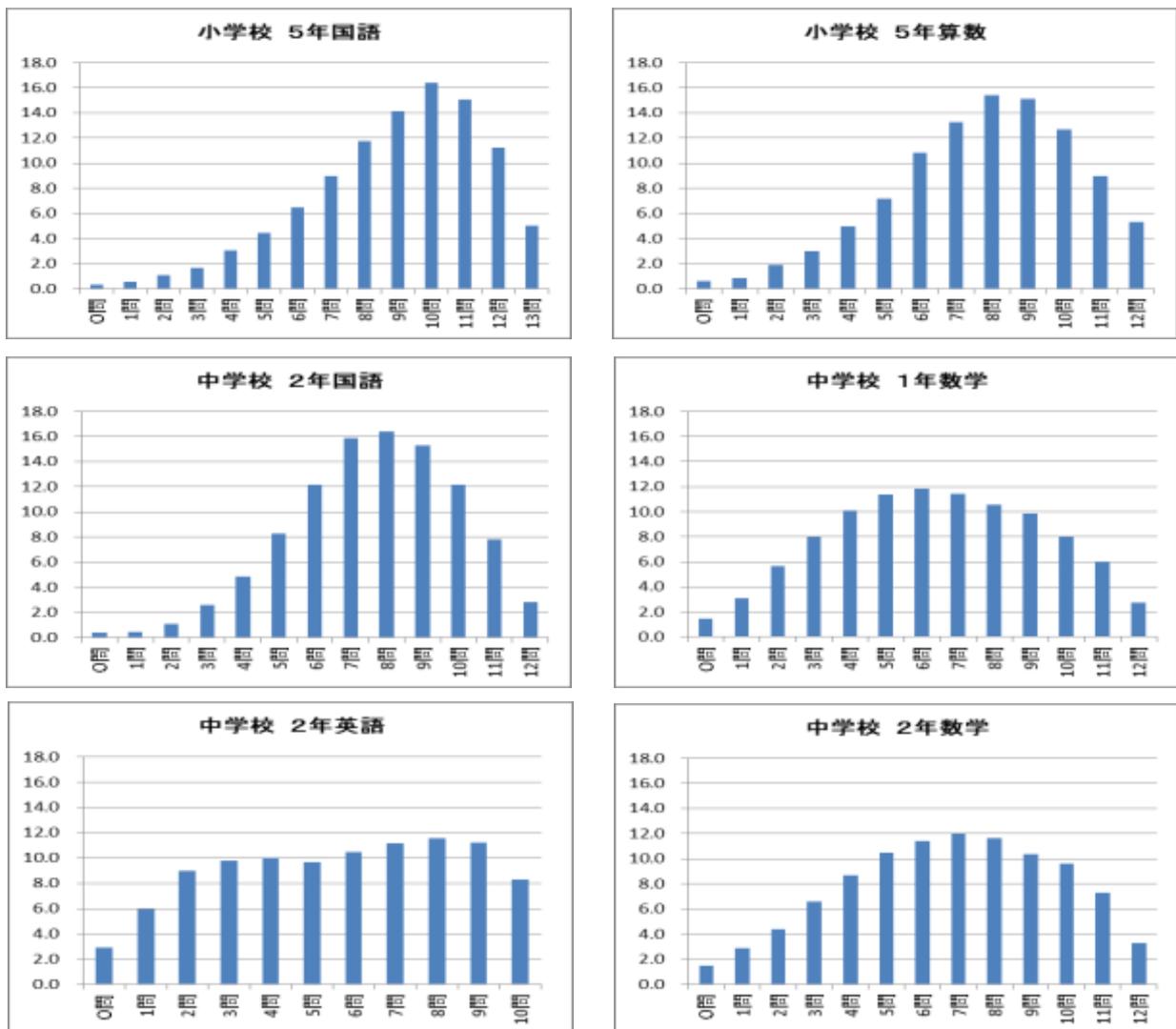
教学指導課

1 調査教科及び調査した児童生徒数 上段；参加人数 下段；参加校数

	国語	算数・数学	英語
小学校 5 年	15,689 人 (80.3%) 312 校 (84.3%)	15,464 人 (79.1%) 309 校 (83.5%)	
中学校 1 年		14,187 人 (68.7%) 151 校 (81.2%)	
中学校 2 年	14,809 人 (74.5%) 158 校 (83.9%)	14,817 人 (74.6%) 160 校 (86.0%)	14,860 人 (74.8%) 160 校 (86.0%)

(参考；全県 小5 19,549 人，中1 20,641 人，中2 19,865 人，小学校 370 校，中学校 186 校)

2 正答数の分布グラフ (単位%)



国語については、小学校 5 年、中学校 2 年ともに右よりの分布となった。算数については、小学校 5 年は右よりの分布となったが、中学校 1 年数学、中学校 2 年数学では左右対称に近い分布となった。英語（中学校 2 年）については、左右対称に近い分布となった。各校においては、自校の分布と比較して傾向をつかみ、補充指導等により全ての生徒に基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるようにしたい。さらに、伸びる力を一層伸ばすことを視点とした授業改善を進めていくことが必要である。

3 正答数の分布

(単位 上段；人，下段；%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問	13問
小5 国語	47	84	165	247	463	671	979	1358	1784	2148	2490	2285	1707	762
	0.3	0.6	1.1	1.6	3.0	4.4	6.4	8.9	11.7	14.1	16.4	15.0	11.2	5.0
小5 算数	93	132	289	458	758	1094	1661	2030	2360	2319	1942	1373	812	
	0.6	0.9	1.9	3.0	4.9	7.1	10.8	13.2	15.4	15.1	12.7	9.0	5.3	
中1 数学	207	441	799	1131	1430	1611	1682	1618	1497	1394	1134	852	391	
	1.5	3.1	5.6	8.0	10.1	11.4	11.9	11.4	10.6	9.8	8.0	6.0	2.8	
中2 国語	51	60	156	379	720	1222	1804	2355	2432	2267	1798	1152	413	
	0.3	0.4	1.1	2.6	4.9	8.3	12.2	15.9	16.4	15.3	12.1	7.8	2.8	
中2 数学	205	393	594	901	1185	1432	1560	1637	1590	1414	1308	992	444	
	1.5	2.9	4.4	6.6	8.7	10.5	11.4	12.0	11.6	10.4	9.6	7.3	3.3	
中2 英語	435	887	1336	1457	1485	1435	1552	1662	1715	1666	1230			
	2.9	6.0	9.0	9.8	10.0	9.7	10.4	11.2	11.5	11.2	8.3			

4 各問の正答率 (単位%)

○知識に関する問題

◇活用に関する問題

小5 国語	【一】 (1)○	【一】 (2)○	【二】 (1)○	【二】 (2)○	【三】 ①○	【三】 ②○	【四】 ア○	【四】 イ○	【五】 1○	【五】 2○	【五】 3○	【六】 ◇	【七】 ◇
	93.8	94.5	65.8	64.8	44.1	48.7	78.4	62.0	74.0	65.5	81.7	82.5	37.9
小5 算数	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【1】 (3)○	【1】 (4)○	【2】 ○	【3】 (1)○	【3】 (2)○	【4】 ○	【5】 (1)○	【5】 (2)○	【6】 ◇	【7】 ◇	
	74.0	83.2	72.8	73.5	57.3	35.1	86.2	88.4	49.1	43.6	72.2	39.7	
中1 数学	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 (1)◇	【7】 (2)◇	【8】 (1)◇	【8】 (2)◇	【8】 (3)◇	
	83.6	67.8	28.7	65.1	72.9	41.3	45.7	82.3	35.4	34.5	55.7	25.3	
中2 国語	【一】 (1)○	【一】 (2)○	【二】 (1)○	【二】 (2)○	【三】 (1)○	【三】 (2)○	【四】 ア◇	【四】 イ◇	【五】 ◇	【六】 ◇	【七】 ア◇	【七】 イ◇	
	90.8	86.1	33.4	50.3	96.7	58.9	60.4	65.8	58.0	55.6	43.6	65.3	
中2 数学	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ○	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)◇	【10】 (2)◇	
	71.5	62.7	80.8	52.3	76.7	61.2	31.1	78.1	53.7	39.1	20.9	44.0	
中2 英語	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ◇	【9】 ◇	【10】 ◇			
	65.8	84.8	49.6	69.8	53.9	63.7	54.3	50.7	35.7	30.3			

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率 (単位%)

	小5国語	中2国語	小5算数	中1数学	中2数学	中2英語
知識に関する問題	70.3	69.4	66.3	57.9	64.3	63.1
活用に関する問題	60.2	58.1	56.0	46.6	39.4	38.9

活用に関する問題では、正答率が低い傾向にある。「複数の情報を関連付けて読み取ったり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりすること」等が課題である。後ほど示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、確実に授業改善を進めていく必要がある。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。C調査問題は、昨年までの学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、児童生徒が確実に理解できるようにすることが必要である。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

6 C調査結果から見えた課題と指導改善のポイント

C調査結果で見えた課題

- ・ 図と関連付けて理解したり、事象の根拠を見いだしたりすること。
- ・ 意見の共通点と相違点を考え、立場や根拠を明確にして話し合うこと。
- ・ 文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。

指導改善のポイント

1 問題解決において、根拠となる事柄を示したり、判断の理由を説明したりする活動を取り入れましょう。

- ・ 文章や資料、図表などから必要な情報を取り出し、根拠を明確にして自分の考えを表現する活動を取り入れることで理解が深まります。
- ・ これらのことを、小・中学校ともに、全教科で取り組むことが大切です。

2 学級の友達と話し合う活動を通して、話し手の意図を的確に受け止めたり、立場や根拠を明確にして自分の考えを述べたりすることができるようにしましょう。

- ・ 意見の共通点や相違点を整理して話し合う観点を明確にしたり、体験に基づいた具体例を挙げて自分の考えを文章で記述したりすることで理解が深まります。

7 各教科・学年において課題となった問題と指導改善の方向

(1) 小学校5年国語

【四】イ 正答率 62.0%

① 課題

文や文章を読み、書かれている対象や考えの理由をとらえること

- ・過去の類題から徐々に正答率のポイントが高くなってきており成果が見られるものの、本文中の言葉を使って適切に空欄に当てはまる言葉を答えられない児童が約25%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査 44.9% ・平成22年度C調査 38.7%

③ 指導改善の方向

- ・本や文章を読んで、感想や紹介、推薦の文章を書くためには、本や文章の選択の仕方や読み方を工夫することが重要である。例えば、本や文章の選択の仕方としては、一編の話に限定するのか、数編の文章が所収された本を対象にするのかという違いに着目することができるように指導することが大切である。

授業では、文や文章を読み取る際に、何となく理解するのではなく、何についてどのように書かれているのか、書き手はどのような考えを持っているのか、などの根拠や理由、意見や主張を意識することを大切にしたい。そのために、観点を明確にして読み取り、自分なりに書いてまとめるといった指導の工夫が必要である。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・小5・7月の活用

【五】2 正答率 65.5%

① 課題

文章を読み、表現の工夫をとらえること

- ・各段落に書かれている内容を正しく読み取ることができなかった児童が約30%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査 53.9% ・平成25年度全国学力学習状況調査 53.8%

③ 指導改善の方向

- ・目的に応じて本や文章を読み、相手意識を明確にして推薦文を書くことが重要である。そのためには、自分の目的とともに、推薦する相手の目的も考慮し、どのような本や文章を取り上げるのか、取り上げた本や文章の何を主に推薦するのかなどを明確にすることができるように指導することが大切である。

授業では、本や文章を読む際に、書かれている内容を正しく理解するだけでなく、それがどのような工夫で書かれているのかについても意識することが重要である。そのために、何のために読むのか、という目的を明確にする。例えば、本や文章を読んで紹介したり、本の帯や広告カード（ポップ）などの方法で推薦したりする言語活動と関連付けることが大切である。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小5・7月の活用

【六】 正答率 82.5%

① 成果

司会の役割を果たしながら、計画的・効果的に話し合うこと

- ・ P調査の類題より約 25 ポイント上昇し、指導の成果が伺えるものの、司会としてのねらいを選択肢から正しく選べなかった児童が約 15%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度 P 調査 55.1% ・ 平成 24 年度 C 調査 50.1%

③ 指導改善の方向

- ・ 話し合いを計画的かつ効果的に進めていくためには、役割に応じた話す力や聞く力を高めることが重要である。司会は、参加者に対して議題や話し合う順序を確認した上で、話し合う内容に合わせ、論点を整理しながら話し合いを進めることが必要である。また、時間配分を考え、話し合う内容の一つ一つについて一定の結論へと導くように進行していくことが大切である。

- ・ 授業では、話し合うことの力を付けるために、話し合いそのものを課題として位置づけることが必要である。そのために、司会や提案、記録などの役割を果たせる力を身に付けられるように言語活動を設定し、全員が司会や提案、記録などの役割を経験できるようにする工夫が必要である。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小5・12月 の活用

【七】 正答率 37.9%

③ 課題

互いの意見の共通点と相違点を考え、司会の役割を果たしながら話し合うこと

- ・ P調査の類題より約 15 ポイント上昇し、指導の成果が伺えるものの、正答の条件を満たさないで解答している児童が約 40%いる。

④ 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度 P 調査 21.8% ・ 平成 24 年度 C 調査 50.1%

③ 指導改善の方向

- ・ 話し合いには、グループや学級全体での共通理解や問題解決に向けて、相互の知識や考え、意見などを出し合い、一つにまとめていく協議と、互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関係付けていく討論とがある。これらの特徴を理解し、目的を踏まえた話し合いになるようにすることが重要である。

- ・ 話し合うことの力を付けるためには、自分たちの話し合いを客観的にとらえることが求められる。そのために、ビデオや IC レコーダー等を活用し、教材化を工夫する必要がある。また、多様な質問の観点とそれに基づく話型を具体的に指導したい。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小5・12月 の活用

(2) 小学校5年算数

【3】(1) 正答率 35.1%

①課題

量の単位や測定の意味等について理解すること

- ・ $1\text{ m}^3 = \square\text{ cm}^3$ に対して、 100 cm^3 を選択している児童が約 30%いる。

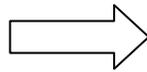
②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 26 年度全国学力・学習状況調査（ 1 cm^3 を基に直方体の体積を求める問題） 82.7%

③指導改善の方向

- ・ 体積を求める式は、単位立方体の個数を求めるための式であることを確認することが必要である。
 1 m^3 は 1 cm^3 がいくつ分か考える場面を設定し、**具体物や図を利用しながら、式と結び付けて言葉で説明する活動**を取り入れたい。その際、 1 cm^3 の立方体を縦1m、横1mの正方形の中に敷き詰めた1段分の個数が 100×100 個、それが 100 段あるから $100 \times 100 \times 100$ 個で求められることを確実に理解する必要がある、量の大きさについての感覚を育てるよう配慮する必要がある。

補充・補完指導をしましょう



レビュー問題 小5・②-1, 2 の活用

【7】 正答率 39.7%

①課題

条件を変えた複数の図形で、体積が等しいことの理由を言葉や式や図を用いて説明すること

- ・ 説明が不十分な解答であった児童が約 20%いる。

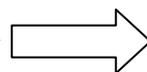
②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 26 年度 P 調査 51.9% ・ 25 年度 P 調査 52.1%

③指導改善の方向

- ・ 事柄の正しさを示したり理由を説明したりする活動において、他者を納得させるために必要な事柄を意識し、これらをもれなく、順序よく用いることができるようにすることが大切である。例えば、本問題で「全体の体積が変わらないから」と答えた児童には、「全体の面積だけで白い部分の体積について説明できますか、他に必要なことは何でしょう。」などと問いかけて、必要な事柄を意識できるようにすることが考えられる。
- ・ 問題解決の過程や自分の考えを、言葉や式や図を用いて説明する活動を取り入れたい。その際に、言葉や式や図の効果的な用い方を考えたり、それらの関連性を明確にしたりすることが必要である。また、**解決方法を振り返る活動**を取り入れ、一度書いた説明を見直し、**どんなことが書かれていればよいのかを確認して、よりよい表現に修正することが大切である。**

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題 小5・12月②, 1月② の活用

レビュー問題 小5・②-4, ⑨-3の活用

【5】(1) 正答率 49.1% (2) 正答率 43.6%

①課題

示された場面の数量の関係を理解すること

・「比べる量」と「もとにする量」を逆にとらえている児童が約 40%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・26年度P調査(整数倍) 85.4% ・25年度C調査(小数倍) 29.5%

③指導改善の方向

- ・何倍という関係となっている事象で、何が「比べる量」で、何が「もとにする量」なのかとらえることができるようにすることが大切である。そのために、文章から分かることを順序よく図に表す活動を取り入れ、図から数量の関係を理解させることが必要である。
- ・何が何の何倍になるのか、求めるものは関係図のどこなのかなど、**数量の関係を明確にしなが**ら**問題の数量関係を関係図に表して、筋道立てて考える学習活動**を位置付けたい。特に、小数倍(割合が1より小さくなる場合)の数量の関係を図に表して考える場面を丁寧に扱うことが大切である。
- ・5年「割合」の学習では、日常生活の中で百分率が用いられている場面を探すなどの活動を充実させるとともに、それらが何をもとにする量としているかを考える活動を取り入れたい。

ある 500m L のりんごジュースに含まれている果汁は 30% です。果汁は何m L ですか。
※もとにする量は何ですか。

- ・もとにする量は、りんごジュースの量。(500m L)
- ・500m L の 30% は、500m L の 0.3 倍だから、 500×0.3
- ・言葉の式で表すと、りんごジュースの量(全体) \times 果汁の割合 = 含まれている果汁の量 となる。

定価 12000 円の電子辞書を 20%引きで買うと、いくらになりますか。
※もとにする量は何ですか。

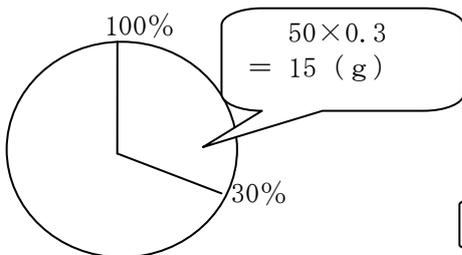
- ・もとにする量は、電子辞書の定価。(12000 円)
- ・20%引きは、もとにする量の 80%のこと。
- ・12000 円の 80% は、12000 円の 0.8 倍だから、 12000×0.8
- ・言葉の式で表すと、電子辞書の定価 \times 割合 = 買った値段となる。

・割合の意味を理解し、問題解決に使えるようにするには、百分率を表した円グラフや帯グラフを使って全体と部分の関係をよみとるなど、割合を具体的にイメージして数量の関係をとらえる活動を大切にしたい。具体的には次のような活動が考えられる。

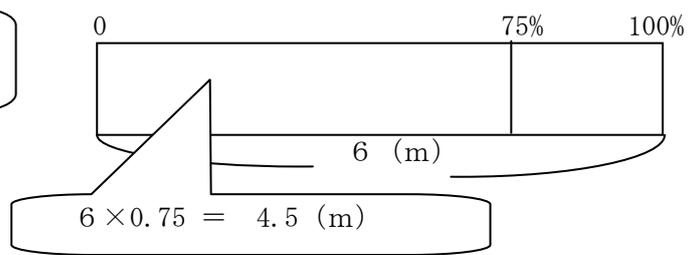
①日常生活や社会科、理科の学習との関連をもたせ、円グラフや帯グラフが、全体と部分、部分と部分の間の関係を表したり、よみ取ったりする上で便利であることに気付かせる。

②グラフを利用して数量の関係をとらえたり、式に表したりする活動を位置付ける。

<50 グラムの 30%の重さ>



<6メートルの 75%の長さ>



補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 小5・9月① の活用

レビュー問題 小5・③-2, ⑫-1~4 の活用

(3) 中学校1年数学

【2】正答率 28.7%

① 課題

小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解すること

- ・解答類型の上記以外の解答や無解答の生徒が約50%いる。

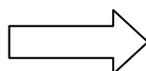
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査（●が負の数ではなく正の数の場合） 57.9%

③ 指導改善の方向

- ・数直線や図などを用いたり、具体的な場合に当てはめたりして数量の関係をとらえられるようにして、乗法と積の大きさ、除法と商の大きさの関係を調べる活動を取り入れることが大切である。
- ・問題を解決する際に、有効な手だての一つとして、簡単な場合に置き換えて考えることがある。例えば、本問題の選択肢4の式で、簡単に計算ができるように、●に-8を当てはめて除数と商の大きさの関係を調べることができる。文字式の指導の場面でも、このように簡単な場合に置き換えて考える活動を通して、生徒が問題を解決する手がかりをつかめるようにすることが大切である。

補充・補完指導をしましょう



レビュー問題 中1・①-2-2 の活用

【5】正答率 41.3%

① 課題

関係や法則を式に表現したり式の意味をよみとったりすること（文字式の加法と減法の計算）

- ・分配法則を正しく用いることができなかつた生徒が約10%いる。

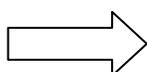
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成20年度全国学力・学習状況調査 82.9%

③ 指導改善の方向

- ・文字式の計算では、計算過程において分配法則を適用するなどして、正確に計算することが大切である。そのため、計算過程を見直したり、計算結果を確かめる方法を理解したりすることもできるようにしたい。文字式の計算結果の正誤を、具体的な数を代入して確かめる機会も取り入れたい。
- ・文字式の計算をすることだけでなく、文字式の意味を理解し、問題解決に使えるようにするために、文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明する活動等を取り入れることが大切である。

補充・補完指導をしましょう



レビュー問題 中1・②-2-1, ②-2-2 の活用

クリア問題 中1・8月②, 9月① の活用

【7】(2) 正答率 35.4%

① 課題

事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること

・説明すべき事柄の根拠と結論のどちらか一方のみを書いた生徒が約 20%いる。

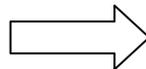
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率
平成 19 年度 全国学力・学習状況調査 43.7%



③ 指導改善の方向

- ・数や図形について成り立ちそうな事柄を予想し、予想した事柄を正確に表現し文字式などを活用して事柄が成り立つ理由を説明したり、反例をあげて事柄が成り立たないことを示したりする活動を取り入れることが大切である。
- ・文字式を用いた説明や図形の論証の学習場面に限らず、数学科の学習全般にわたって、事柄が成り立つ理由を説明する学習場面で、説明すべきことがらの根拠と、それによって説明される結論の両方を述べる機会を意図的に設定することが大切である。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題 中1・6月②, 10月②,
11月②, 2月② の活用

【8】(1) 正答率 35.4% (3) 正答率 25.3%

① 課題

問題解決の方法や手順, 事柄が成り立つ理由を, 数学的な表現を用いて的確に説明すること
解が問題の答えとして条件を満たしているかを問題文と照らし合わせて判断すること

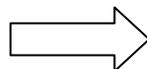
・条件を変えた場合の解が適切かどうかを判断し説明する問いに対して無解答の生徒が約 40%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率
平成 22 年度 全国学力・学習状況調査 26.7%

③ 指導改善の方向

- ・問題解決の場面で方程式を利用する場合、方程式の解が問題の答えとして適切であるかどうか、調べる必要があるのはなぜか、それをどのように調べればよいかを理解させることが大切である。
- ・方程式をつくるときに用いられていない問題の条件(家から駅までの道のり 2000m)に着目することによって、解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べる必要性を理解し、解を問題の答えとするとその答えが条件を満たしているかどうかを問題文と照らし合わせて判断できるようにすることが大切である。また、問題の条件を変えると方程式の解が問題の答えとして適切でない場合があることを取り上げることが有効である。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題 中1・10月①の活用

(4) 中学校2年国語

【二】(1) 正答率 33.4%

① 課題

文脈に即して漢字を正しく書くこと

・「大きなコウセキをあげる」の「功」は正しく「績」が正しくない生徒が約20%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査（パーティーにショウタイする） 49.0%
- ・平成16年度特定の課題に関する調査（輝かしいコウセキを残す） 17.6%

③ 指導改善の方向

・漢字の読み書きの習得のためには繰り返しの学習が必要である。例えば、学習用ソフトウェアのアニメーション等を見て、漢字の筆順や成り立ちなどを確実に理解できるようにしたい。また、漢字を書くことの指導においては、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導する必要がある。その際、字形の似ている漢字のそれぞれの意味を理解させるとともに、**部首との関連や、熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認させることが大切である。**

・授業や家庭学習においては、漢字を単独で指導するばかりではなく、**その漢字を用いた語句の使い方も併せて認識させたい。**それとともに、**その漢字を用いた語彙を広げていくようにする。**具体的には、「功績」の「績」は「わざ、仕事」という意味があるが、「功績」の「績」を使う「成績」「戦績」「業績」などの語句や「積」を用いた「積雪」「集積」などの語句との違いを対照させた上で、練習等を行うことが大切である。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・中2・7月の活用

【三】(2) 正答率 58.9%

① 課題

慣用句などの語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

・別の言葉を選択した生徒が約50%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査（笑う門には福来る） 89.3%

③ 指導改善の方向

・本問「ひざがわらう」は、生活の中で、あまり使われないことが正答率に反映されていると考えられる。日頃から多様な言葉にふれさせるとともに、意図的に言葉を収集し、選択する等の活動をおして、言葉についての関心をもつようにすることが大切である。また、語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えることが重要である。

・授業では、実際に慣用句やことわざ等を使い、その意味や用法を考えるなどの学習活動が効果的である。**短文を作り、適切であるか検討したり、生活場面ごとに分類したりすることも考えられる。**また、自分の表現に用いるために、本や文章を読んでその中に使われているものを探すことも有効である。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・中2・5月の活用

【五】 正答率 58.0%

① 課題と成果

自分の立場を決め、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

- ・ 正答の条件のうち、「本文を引用して書くこと。引用する部分はかぎかっこ（「 」）でくくること」ができなかった生徒が約 15%いる。無答率は約 5%であり、P 調査の無答率約 20%からは、大幅に改善されている。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度 P 調査 37.7% ・ 平成 24 年度 P 調査 37.3%

③ 指導改善の方向

- ・ ある事柄について自分の考えを書くためには、その事柄について賛成か反対か、自分はどのように考えているか**自分の立場を決め**、自分の考えの中心や主張を明確にして書くようにすることが大切である。他者の意見などを引用する場合には、**自分の考えを根拠付けるために引用する**という目的をはっきりさせ、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどにも注意したい。
- ・ 授業では、自分の立場を支える**根拠がどこなのかははっきりとさせ**、板書等で位置付ける。また、自分が体験したこと、見聞したことなどの**事実や事柄が具体的に書かれていることを認め**、その**妥当性について交流**させることも重要である。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・中2・3月の活用

【七】 ア 正答率 43.6%

① 課題

目的に応じて必要な情報を読み取ること

- ・ マークを補足している表現を読み取れず、別の表現を記述した生徒が約 55%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度 P 調査 53.2% ・ 平成 25 年度 C 調査 61.5%

③ 指導改善の方向

- ・ 情報を読み取る際には、それぞれの情報手段にはそれぞれの特徴があることを知り、その特徴を生かしながら情報を読み取ることが重要である。また、文章の構成や細部の表現に着目して情報を読み取ることも大切である。**中心的な部分と付加的な部分、事実と意見、原因と結果などを読み分け**、目的や必要に応じて、情報を読み取りたい。
- ・ 授業では、次のような指導の工夫を行うことも考えられる。
 - * 文章の中で、図表と対応する部分を指摘させる。
 - * 文章と図表との関連を、次の三つの観点で整理し、図表の役割や図表を用いたことによる効果について考える。
 - ・ 文章からも図表からも分かること
 - ・ 文章からしか分からないこと
 - ・ 図表からしか分からないこと

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・中2・8月の活用

(5) 中学校2年数学

【7】正答率 31.1%

① 課題

独立変数と従属変数の関係を的確にとらえ、その関係を「～は～の関数である」と表現すること

・独立変数と従属変数の関係を逆にとらえた生徒が約30%いる。また、無回答の生徒が約30%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成26年度P調査 12.0% ・平成26年度全国学力・学習状況調査 37.9%

③ 指導改善の方向

・独立変数(〇〇)と従属変数(△△)との違いを意識して「△△は〇〇の関数である」という形で表現できるように指導することが大切である。2つの変数の関係を「 y は x に比例する」「 y は x の一次関数である」等といった形で表現する学習において、「 y は x の関数である」という表現を取り上げ、関数の1つとして「比例」「反比例」等があることを確認する場を大切にしたい。

*各学年の関数学習において、いくつかの事例を示し、「 A を決めると、それにもなるとして B がただ1つ決まる」ことを「 B は A の関数である」という形で表現する活動を設定する。また、「関数である」ことと「比例」「反比例」「一次関数」を関連付け、関数の意味理解が深まるようにする。

*独立変数と従属変数関数の違いについては、 $y=ax^2$ のように、グラフなどを使い、 x を決めると y が決まるが、 y を決めても x が決まらない関数で改めて考察し、理解を深めるようにする。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 中1・④-1-1 の活用

レビュー問題 中2・③-1-1 の活用

【9】(2) 正答率 39.1%

① 課題

事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること

・説明が不十分なものや無解答である生徒が約45%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成26年度P調査 38.8% ・平成24年度全国学力・学習状況調査 31.8%

③ 指導改善の方向

・事柄が成り立つことを説明する際に、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにすることができるように指導することが大切である。

*文字式を使った説明に限らず、式化する場面において、「なぜ、 $3(n+7)$ としたのか」「 $n+7$ は、何を表しているのか」など、式化の意図や式が表わすものをよみとる学習活動を取り入れる。

・整数の性質などが成り立つ理由を説明する場面では、説明の見通しをもつために、結論を導くために何を明らかにすればよいかについて考える活動を取り入れることが考えられる。例えば、本問題においては、「式を変形して、その式が $3 \times (\text{整数})$ となることを示せばよい」という見通しをもつことができるようにしたい。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 中2・6月①, ② の活用

チャレンジ問題 中2・7月①, ② の活用

【10】(1) 正答率 20.9%

① 課題

グラフの様子を的確にとらえ、式に表すこと

・無回答の生徒が約 60%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 24 年度全国学力・学習状況調査 72.1% (グラフから傾きと切片の値を読みとり, 選択する。)

③ 指導改善の方向

・日常的な生活場面における 2 つの変数について, 示されたグラフから式を読みとる学習の際には, 座標軸の間隔に留意し, x の増加量や y の増加量を正しく読み取ることができるように指導することが大切である。

*生徒は, 「○マス進んで, △マス上がる」などと, マス目をもとに傾きを読みとることに慣れていないのではないかと考えられる。グラフの読みとりを行う練習問題などにおいて, 意図的に座標図の補助線を無くしたり, 1 目盛りの幅を x と y で変えたりするなど問題設定を工夫する。

*文字で書かれた情報をもとに式を求める場面で, 手書きのグラフを描く場面を設定し, マス目に頼らず, x の増加量や y の増加量を求められるようにする。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 中2・③-1-4 の活用

【10】(2) 正答率 44.0%

① 課題

事象を数学的に判断し, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

・根拠を明確に書けなかったり誤った根拠を書いたりした生徒が約 20%いる。また, 無解答の生徒が約 20%いる。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 22 年度全国学力・学習状況調査 27.7%

③ 指導改善の方向

・傾きや交点の位置などから 2 つのグラフの様子をとらえ, 指定された x の値に対する y の値を比較するなど, 判断に必要な知識を正しく選択し, 用語を正しく使って説明することを意識した学習活動を一層充実させることが大切である。

*数学的に表現することで, よりの確かな説明になるよう見直す場面を設定する。例えば, 本問題で「Aの方が下だから」ということを根拠に示した生徒の表現を取り上げ, 「グラフが下」ということについて話し合う場面を設定し, 「 y の値が小さい」「グラフの y 座標がより下になる」など数学用語を用いて表現できることを確認し改善していく。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 中2・9月① の活用

チャレンジ問題 中2・1月① の活用

(6) 中学校2年英語

【3】 正答率 49.6%

①課題

月，曜日などの基本的な語句を正しく書くこと

- ・ Sataday, Satadey, Saturdey 等，綴りを誤って解答しており，単語を発音することや単語の綴りの全体イメージをもつことはできていると考えられるが，正しい綴りで単語を書くことができていない生徒が約 25%いる。また，無回答の生徒が約 10%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 23 年度 C 調査 (Saturday) 50.4% ・ 平成 26 年度 P 調査 (August) 36.8%

③指導改善の方向

- ・ 曜日，月，数字などの基本的な語句は，授業のはじめに口頭で繰り返し練習するとともに，学習カードやノートに綴りを確認しながら書いたり，授業のはじめに小テストをしたりするなどして定着を図る。また，日付や曜日等は，家庭学習においても，提出ノートなどに英語で書くことを習慣づける。
- ・ 文字の指導では，機械的に記憶させるのではなく，音声と文字を関連付けて指導するとともに，具体的な場面や状況に応じて適切に用いるようにし，活用することを通して定着を図る。

【7】 正答率 54.3%

①課題

ある程度まとまりのある英文の大切な部分などを正確に読み取ること。

- ・ 「ナンシーも彼女の母も日本語を上手に話すことができる」「この手紙は，8月10日に由美が書いたものである」と，本文から読み取った情報の一部から判断して解答している生徒が約 40%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度 P 調査 72.4%

③指導改善の方向

- ・ 書かれている英文の内容を読み取る Q A 活動や，読み取りのポイントを示したワークシート等の工夫により，英文の内容について概要から詳細へと読み進められるようにしたい。さらに，代名詞や接続詞，時を表す言葉などに注目し，書かれている文と文のつながりや関係などに着目して読み取れるようにする。

【9】 正答率 35.7%

①課題

問答の意味を理解し、条件に合うように英語を使って適切に応じ、書くこと

- ・対話の流れを理解し、自らの考えを1文の英語で表現しようとしているが、文法的に間違いのある答えを書いている生徒が約20%いる。また、無解答の生徒が、約30%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査 27.1%

③指導改善の方向

- ・一文一文を正確に書くことが出来るよう、語順を観点に表現を振り返る場面を単元に位置付ける。また、書く活動では、観点を明確にして生徒同士で読み合ったり、批正し合ったりし、英文の正しさに目を向けるような場面を授業に位置付ける。
- ・考えや気持ちを伝える言語活動では、相手の意向を正しく理解し、状況に合った適切な表現を自ら考えて応じられるようにする。そのために、具体的で分かりやすい場面を設定し、その場面にふさわしい表現を話し手が考えて表現できるようにしたり、その場にふさわしい表現をいくつか提示し、その中から表現を選択できるようにしたりするなどの工夫を行う。また、帯活動等において、既習事項を活用して考えや気持ちを伝え合う活動を行い、伝え合うことよさや楽しさを感じることを出来るようにする。

【10】 正答率 30.3%

①課題

身近な場面について書く内容を構想し、英語2文で書くこと

- ・文法的な間違いがあるが、内容的には理解できる2文を書いており、意欲的に書こうとしているが、正答の条件に満たない生徒が約30%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度P調査 28.5%
- ・平成25年度C調査 40.0%

③指導改善の方向

- ・身近な事柄や自分の考え、気持ちなどを表すために必要な文法事項や表現等を教科書で学習した後、教科書の本文を基に書く型を示したり、教師が示したモデルから活用できる表現に気付かせたりするなど生徒が意欲的に取り組めるよう工夫をする。また、生徒一人一人が意欲的に活動し、お互いの良い点や工夫した点等を共有できるように、ペアやグループ学習を適宜取り入れる。